

婦人子ども



大正四年十月五日

第十五卷
第十號



フ
レ
ー
ベ
ル
會

第十五卷第十號目次

全國幼稚園關係者大會に出席して

大村 芳樹

子供の衛生上保姆の常に注意すべきこと

宮本 伸

話の起源

K T 生

『トプシイ』(一)

岡田 みつ

ねずみ

廣島女學校幼稚園

子供のわがま

倉橋 惣三

雑録

フレーベル追懷録

本誌定價

一冊 郵税共金拾壹錢 六冊前金郵税共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は

東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、

雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々

木山谷一二四倉橋惣三宛

大正四年十月一日印刷

大正四年十月五日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

編輯兼發行者 倉橋 惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地

印刷者 東京市本所區番場町四番地

印刷所 東京市本所區番場町四番地

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地

發行所 フレーベル會

フレীবエル會總會

- 一、十月十六日(第二土曜日)午後一時半より
- 一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて
- 一、開會の辭
- 一、庶務會計報告
- 一、講演

戦争と婦人

東京文科大學
助教授文學士

深作安文君

- 一、會員談話

多數諸君の出席を希望す

十月

フレীবエル會

會 告 (二件)

今般都合によりフレーベル會事務所及び『婦人と子ども』發行所を東京女子高等師範學校附屬幼稚園内に移す。此の段廣告候也

本誌十月號即ち本號には、全國幼稚園關係者大會の記録を掲載すべき旨、大會席上に於て御報告致置きたる處、同記録は別に一冊の印刷物として頒布致さんとする計畫あり、其の計畫の詳細については尙ほ未定なるも(委細十一月號に御報告致すべし)兎に角本號に掲載することは見合せ、普通號となしたり。此段諒承を乞ふ。

全國幼稚園關係者大會に出席して

大阪市保育會副會長 大村芳樹

一 久々にての保育大會

京都大阪神戸には各保育會の組織があつて、毎年一二回各市集會して幼兒保育上の問題について研究會を催して居る外に、又此三市が毎年一回聯合會を交番に開いて、既に二十二回に及んで居る。之を創設したのが明治三十年の春であるから、今年で十八年餘に及んで居る。一年二回催した事もあるから二十二回に達して居るので、本年は五月神戸で開いた、明年は大阪の番になる。此聯合會には三市の會員六七百名の外、他府縣からも傍聽旁出席するものがあつて、毎回七八百名の盛會を見る。出席會員の範圍は三市を中心とし、東は滋賀奈良三重愛知、西は岡山廣島香川徳島愛媛等

であつて、盛會は盛會であるが先づ關西だけに止まつて、全國には亘らない。然るに去明治三十六年大阪に第五回内國勸業博覽會の開かれたのを好機に、教育大會を開いたことがある。其時の一部會として保育部大會を開いたのが、先づ全國から幼稚園關係者の一堂に集まつた我が國に於ける第一回の會合であつた様に思ふ。今當時の記録を見ると次ぎの様である。

二 大阪で開かれた第一回の保育者大會

大阪府教育會は博覽會を機とし教育大會を開催した。此大會は明治三十六年五月五日六日の二日に亘り、一、初等教育部二、保育部三、中學教育部

四、高等女子教育部 五、師範教育部 六、農業教育

部 七、工業教育部 八、商業教育部の八門に分か

れ、保育部長をば大阪市保育會長たる不肖芳樹が
擔任するとなつて、凡そ左の通り執行せられた。

五月五日

來賓湯本武比古君の講話(保育に關して)

研究題の討議

一、遊戯室及保育室の裝飾法(委員附托)

二、幼稚園に於て保育を終りし幼兒が小學校

其他將來に於ける成績調査に關する方法

(雜誌上で調査を發表することになつた)

三、石盤畫は興味少きを以て簡易なる切拔畫

を模寫せしめ之に彩色せしむるの可否(可

決)

來賓高島平三郎君の講話(幼稚園時代の幼兒の

精神傾向)

建議案討議(一より四に至る)

(保姆の資格及待遇に關するものなり)

五月六日

遊戯の交換

研究問題の討議

一、現今の情況に於て幼兒入園年齢を滿四年

よりとするの可否(可決)

二、遊戯室及保育室の裝飾法(委員案につき

て)

三、幼兒の組を分つに男女の性を以てすると

年齢の長幼を以てするの可否(年齢を以て

標準とすることに決す)

隨意談話

一、教師の品性が兒童教育上一大必要のもの

にあらずや(エ、エル、ハッ氏)

二、幼稚園に於て自然界を研究するに付フレ

ーベル氏の目的は何でありますか(和久山

キン氏)

三、日本幼稚園の特色(小笠原松枝氏)

三 大阪の大會と東京の大會

大阪に於ける第一回の大會はざつと前項の様な研究問題やら講話やら談話やらあつた。中には幼稚の問題もあるが、又中には今回の東京の大會に出た問題もある。殊に建議案の如きは全然同一のものが今に採用せられずに居ると云ふ有様である。温故知新といふことがあるから、大阪に於ける建議案全文を次ぎに掲げて會員の一考に供するのである。序に當時全國から集つた全員の類別表を掲げて今回のと比較することとする。十六年後にありては流石に會員の數も五百二十名に増員し、空前の大盛會であつたことを深く祝するのである。

○建議案

一、幼稚園職員の待遇方を小學校教員と同一にせられんことを其筋に建議せんとす。(提出者大阪

市保育會)

理由

現今幼稚園職員の資格は小學校教員の資格と大略同様にして、其人物學力等に至て敢て異なることなし。然かも其従事する事業は寧ろ小學校よりも困難なりとす。然るに之が待遇方に至ては却て小學校教員の下にあるを以て、往々適當の職員を得難く、雷に斯業の振はざるのみならず、或は兒童發育の上に弊害なきを保すべからず。是れ其待遇を高め適良の職員を得んとする所以なり。

二、明治三十三年法律第六十三號市町村立小學校教員國庫補助法中に市町村立幼稚園保姆を加へ、其恩典に浴せしめられんことを其筋に建議すること。

三、明治二十三年法律第九十號小學校教員退隱料及遺族扶助料法を、幼稚園職員に適用せられんことを其筋に建議すること。(既に採用せられた

り)

四、幼稚園保母の資格に關し、小學校令施行規則

第二百四條を左の通り改正せられんことを其筋に建議すること。

幼稚園に於て幼兒を保育する者を保母とす。

保母は女子にして尋常小學校本科正教員の資格を有し、保育上の經歷あるもの、又は府縣知事の免許を得たるものたるべし。

保母の職務を助くるものを助手とす。助手は尋常小學校本科准教員（今は尋常小學校准教員）の資格を有する者、又は府縣知事の免許を得たる者たるべし。

五、小學校令施行規則第二百五條を、左の通り改正せられんことを其筋に建議すること。

保母の下に（助手）の二字を加ふること。

○出席者府縣別及數

東京府	二	京都府	三二
大阪府	一八六	兵庫縣	一九
奈良縣	七	滋賀縣	三

岡山縣 一二 廣島縣 六

山口縣 七 德島縣 四

愛媛縣 一三 香川縣 七

高知縣 一〇 島根縣 一九

福岡縣 一五 佐賀縣 一

鹿児島縣 一 愛知縣 六

福井縣 六 富山縣 八

山梨縣 四 茨木縣 七

山形縣 一 合計 三七六

外國人(米國人(女)一) 三 總計 三七九

外國人(佛國人(女)二) 三

此表によつて見ると、矢張近畿が最も多數を占め、之に中國九州四國北陸を加たるに過ぎない。關東は東京と茨城との一府一縣で、東北は山形一縣が加はれるに過ぎない。

四 フレール會の御盡力

當局の深き御保護

久しく全國幼稚園關係者の大會がなかつた所、

十二年後の大正四年八月フレーベル會の御盡力によつて、東京に此第二回の大會を催されたのは、全くフレーベル會役員諸君の御熱心によるので、我等幼稚園關係者が一堂に集つて談話を交換し、必要なる問題につきて研究をもしたり、討議をもしたりする機會を與へられたることを、第一に感謝せねばならぬ。然かも同會役員諸君が炎熱耐へ難い八月の初旬に、終始深切に熱心に盡力斡旋せられたことを、深く感謝せねばならぬ。此種の會合を催すときには、其前に於て少からぬ準備のかゝるもので、それは會日三日間には目に見えないが、假令一度でも此種の會合を催した經驗のある人ならば、慥に會前の役員の勞苦を察知することが出来るものである。會後は引續いてフレーベル會にて講習會を催されたが、此講習は例年開かれる様であるから、敢て本年に限つた譯ではないが、大會に引續いて此講習會に御盡力下さつたは、特に其勞苦を感謝せざるを得ないのである。役員の中に

は自ら講師となられた方もあるから、別けて其方々には感謝せずには居られないのである。然かも此講習は我が關西の會員から御願ひして開いて頂いた様の關係もあるから別して茲に感謝の二字を繰返さずには居られない。

フレーベル會は東京女子高等師範學校が中心となられて居られる所から、東京府市の公私立幼稚園の職員が一團と成られて、協力一致せられて今回の大會に御盡力になつた事であるから、我等の如く他から出席した會員の目から見ると、何とも云へぬ程強固の會合で、而して權威のある會合である云ふ感じが實に深かつた。會長には中川校長閣下が居られ、終始大會の議長として整理の任に當られ、附屬幼稚園の方々は申迄もなく、東京府女子師範學校附屬幼稚園、市内の公立私立の幼稚園長等、皆々有力の先生方が各部の分擔事務に御勉強下さいました事は、我等が見て最も愉快に、最も有難く感じた點である。それに文部當局の方

々が局長閣下を始め、督學官殿に至るまで、三日間御出席下されて、或は説明に或は講演に有力なる訓誨を會員一同に與へられたことは、深く感謝する所である。從來三市聯合會や保育者第一回大會等には嘗て見ない所であつて、會員の熱心なる研究が直接文部當局者の耳目に接したといふ事は關西に居る我々からは最も嬉しく又最も浦山しく思つたことである。

五 保。姆。諸。君。の。熱。心。な。る。研。究。と。謙。遜。

大會の開かるゝ前にフレーベル會から研究問題やら談話題が印刷して配布になつたから、出席者は各自の幼稚園に於て其研究調査をなし、又は保育會などの組織ある處では、其集會で研究討議して、大會に出席したとであらうと思はれるが、大會で意見の發表交換の必要なるは勿論ながら、其出席迄に於ける研究討議も亦中々有益の事項である

ことを推察せねばならぬ。而して大會晴れの場所に於ける各會員發表の状況を見るに實に堂々たるものであつて、而かも眞面目で熱心なる態度には感服の外はない。男子の會合により見る様な不眞面目なる言動は、藥にしたくも見聞することは出來ない。これが女子の會合としての特色で、而かも活氣に乏しいと云ふ弊にも陥らない。肅やかの中に熱心が見え、喧噪ならざる中に活氣が窺はれるといふ風で、實に何とも云へぬ好い感じがする會合であつた。これは獨り今回の大會にのみ見えた事柄ではなく、三市聯合會などに於ても、何時もさう感じて居る次第である。

保育の實際問題については、右の如く保姆諸君の意見發表が實に熱心面にあふれて見えたが、さて保姆の資格待遇等の問題になると、全く緘黙を守つて居られたのは、是亦毎回同様であつて、今回の大會に於ても實に其謙徳が現はれて、我々男子の側からは與床しく思つた。抑資格の事やら待

遇の事を保母諸君自ら彼此の論議するといふ事は、我々は餘り感服はせぬ。歐米の婦人は自己の權利を主張するには、何等疚しくはないといふ様な考から、婦人参政權運動などさへするのに比すれば、保母の待遇云々のことを保母自身が論議したからとて、差支はないとも見られるが、其處が日本婦人の美點であつて、保母諸君は今回の大會のみならず三市聯合保育會などでも、何時も同様であつて、常に其謙遜なのに感服して居つたが、今回の大會に於ても此感を深うした次第である。そこで此資格問題や待遇問題は是非我々男子側の會員が論議すべく保母諸君のために微力を致して少しでも改善を圖らねばならぬと思ふのである。

六 保母の資格と待遇とに

つきて

今回大會に於ける文部省諮問案第一につきて余は愚見を述べたが、保母を養成する最も適切の方

法を研究すると、どうしても待遇問題に溯らねばならぬ。待遇問題に移ると自然資格の問題に歸着するのである。然るに大會々員の中には資格のものを彼此はずとも善良の保母は東京には幾等もあるから敢て資格によるものではないといふ説もあつた。それは御尤のことである。資格あるから善良の保母であつて、資格がなかつたり又は低くかつたりするから、善良でないとは限らない。東京のみならず大阪にも資格の低き保母の人で、實に立派の方が澤山ある。併彼様の方は追々少くなつて、有資格者否高い資格者から追々善良の保母が出て來る様になりつゝある。此風は獨り保育社會ばかりではない、政治界にも實業界にも澤山例はある。一例を云へば地方行政官の内にも、正式の教育を受けなくて立派の成績を揚げた方が少くないが、しかし斯様の方は漸々少くなつて、矢張大學卒業の方が殖えて、善良なる地方官も此中から出て來る様になる。又軍人でも同様で、現に元帥

の高位にある方は、失禮の申し様じやが、正式の軍事教育を受けられた方でないが、段々凋落して行くのを悲しむものである。今の中將以下位の方は皆正式の教育を受けられた人ばかり、(他より軍人になる門口はないからでもあるが)となつて、即ち善良なる軍人は矢張此中から出て來るのである。此他司法官でも實業家でも、皆同様のことと思ふものである。即ち保育社界に於ても全くとは云はないが、多數の善良なる保母は矢張正式の教育を受けた資格の高い人が正式の教育を踏まざるも高い資格を得た人の中から出て來るといふことは云ひ得るであらうと考へる。因て余は善良なる保母の一性質として、此高い資格を數へずには居られないのである。

資格のことを論ずると、どうしても公立幼稚園に從事する保母諸君にのみ限つた事となつて、私立幼稚園の方に及ばないことを御氣の毒に思ふのであるが、公立幼稚園の保母の資格が高まると、

自ら權衡上私立幼稚園の保母方も隨て有資格者高資格者が殖える譯であるから、終には我國公立幼稚園全體に有資格者高資格者の數が殖えて、此保育の道が進歩改良せられることとなるから、暫時私立幼稚園の保母方に於ても、此問題について、大會出席者の一人として、余等の論議するのを御聞きを願ひたいのである。殊に私立幼稚園は少くて四十有餘園殆ど皆公立幼稚園ばかりの大阪府に居る余としては、此資格問題については是非論ぜざるを得ない立場に居るといふことを諒とせられたい。されば十二年前の大阪に於ける大會に於ても、此資格問題について大に研究討議した譯であつて、其以後に於ても大阪市保育會に於ても、三市聯合會に於ても、屢々問題に出た譯である。何卒當局に於ても主意のある所を察せられて、今回建議の通りに改められんことを切望して止まないものである。何分目下の如く尋常小學校の准教員の資格さへあれば、保母となれる様では、保育の

途は改良覺束ない。是非建議案の通り、正保母准保母とでも、單に保母と助手（三十六年大阪に於ける大會の建議の如く）とでも、此邊のところは如何様でもよいが、正保母は尋常小學校本科正教員及び小學校本科正教員の資格者とし、准保母は目下の如く尋常小學校准教員及び小學校准教員の資格者とすることは、極めて急を要する改正かと思ふものである。

資格が高まつて來ると、どうしても待遇を高めなくてはならぬのは、自然の結果であつて、此點も直接には私立幼稚園の方には關係のない問題ながら、間接には又影響して來る次第であるから、暫く御聞きを願ひたいのである。扱此待遇につきても去る明治三十六年大阪で開かれた大會で、議決して建議になつて居る。其後大阪市保育會から單獨に建議したこともあり、三市聯合會で建議したこともある。又フレーベル會からも帝國教育會からも建議になつたことを記憶して居る。先づ待

遇につきましては先にも記載した通り、第一、加俸のこと第二、退職料遺族扶助料のこと第三、判任待遇のこと第四、俸級のこと等五、住宅料や衣服料等のこと第六、免許狀共通のこと等に分かれると考へる。即ち今回の大會に於て東京市保育研究會以下四種の保育會から、建議案として提出せられたのである。實に會心の至りであつた。實は我等關西の三市聯合會からも、同様の建議をしたと思つて居つたが、重複になるから止めたのである。扱大會に於ては建議案第一と第三とを合併して、左の通り修正せられた。

一、幼稚園保母の名稱を正准二種とし、正保母は小學教本科正教員、准保母は小學校本科准教員と同等以上となすこと。

二、幼稚園保母に小學校教員と同一の待遇を與ふること。

但從來の保母にして勤續十箇年以上に互り、成績優良なるものは特別待遇法を設くる事。

右の第一項について批評すれば、文章が不備であるといふことは免れない。文章不備のために内容に非常の變化を生ずるを遺憾とするのである。

先づ第一に幼稚園の上に公立の二字がなくては不都合である。又小學校本科正教員は小學校の本科正教員とせざれば尋常小學校の本科正教員を含まざることなるを以て必ず(の)の一字を加へなくてはならぬ。決して「てにをは」一字の争ひではないのである。小學校本科正教員は尋常小學校[○]准[○]教[○]員と改めなくては、尋准をば除外したることとなつて不都合である。且本科の二字は全く不必要の文字である。若修正案の通りとするときは、同等以上といふ文字が何の用をもなさざる譯であるから、是非尋常小學校[○]准[○]教[○]員と改めねばならぬ。次ぎに右の第二項につきても公立の二字を頭に冠らせなくてはならぬ。又小學校教員の上にも市町村立の四字を加へなくては不備である。さうすれば此文は完全である。因て余は大會では此主意を述べた

つもりであるが、尙役員の御了解が如何かと思つたから、左の修正文を参考として會長閣下まで差出して置いた。

一、公立幼稚園保母の名稱を正准二種とし、正保母は小學校の本科正教員、准保母は尋常小學校准教員と同等以上となすこと。

二、公立幼稚園の園長及保母に、市町村立小學校教員と同一の待遇を與ふること。

但從來の保母にして勤續十箇年以上に互り、成績優良なるものは特別待遇法を設くる事。

幼稚園の上に公立の二字を加へたのは、市町村立幼稚園のみならず、府縣立師範學校附屬幼稚園をも加へたいからである。扱保母の待遇につきましては去明治三十六年の大阪に於ける大會の時分は、實にあはれのものであつた。今は加俸を除いては殆ど其筋の認むる所となつて、待遇は進んで來て居る。即ち退隱料遺族扶助料も、資格さへ尋正又は本正であるならば、浴することが出来る様にな

り、資格さへあれば判任官と同一の待遇になつたし、大阪では俸給も旅費も被服料も住宅料も小學校と殆ど同様になつて居る。唯加俸のことがまだ小學校教員と同一にはなつて居らないから、何卒其筋の容るゝ所となつて、一日も速に法律の改正あるを望むものである。免許狀共通のことは保母にして資格さへつけば、小學校の方の免許狀が既に共通であるから、敢て特別にいふ丈の必要はなくなつて來て居る。それにつけても全國の有資格保母諸君は、既に判任待遇となり、恩給にも浴しつゝ、あるのであるから、先に屢々建議した三市聯合保育會やら、フレイベル會扱は帝國教育會等に對して感謝して宜しいと考ふるのである。而して我々男子會員は尙進んで加俸まで下附せられる様に及ばずながら盡力したいものである。尙一言を追加するが、修正案に於て但書を加へて特別待遇法を設くる様に建議することになつたは、誠に結構のことであつて、我が知るところに於ても、多數資

格も低くて多年幼稚園保育に従事して成績佳良の保母が大阪にもある。此人等のために是非此特別待遇法によつて、資格を高めてあげたいと思ふ。而して國家の設けた法律の恩點(待遇のこと)にも浴せしめたいと思ふ。其處で我輩は文部當局の一顧を願つて、公私立幼稚園の保母にして成績優良のものには選賞の恩點に浴する様に御取計らひが願ひたいものである。小學校教員、學務委員、町村長、實業學校、師範、中學、高等女學校、中等學校の職員には既に選賞の途が開かれたけれども、幼稚園職員までには及ばない。是非優良の園長保母も此恩點に浴する様に願ひたいものである。

(編者識、右の一篇は編者の請ひによりて大村校長の特に本誌に寄せられたるもの、茲に厚く其の好意を感謝す)

子供の衛生上保姆の常に注意すべきことども

宮 本 仲

幼稚園の先生は、子供の手や爪をきれいにするといふ事に氣を付けていたゞきたいと思ひます。

爪の汚い爲めに、そこから黴菌が這入つて腸胃の病氣を起したり、鼻や、耳や、頭の腫物を搔いたりして大變な病氣を惹き起したりします。鼻の中へ指を突つ込んで鼻中隔の粘膜を破つて鼻血を出す事があります。鼻血だけに止つて居ればまだよいのですが、汚い爪で鼻の中を搔いたのがもとで、とう／＼一命を果した例があります。それは私も診た患者ですが、小學校へはいつたばかりの子供でした。鼻の中へ汚い指を突込んで、そこから黴菌がはいつて鼻の中に、ねぶとのやうな腫物が出来て緊衝を起した。「之は大變だから専門の醫者に診せなければいけません」と私はその母親に注

意しました。それにもかゝらずそのお母さんは別に氣にもとめずに硼酸水で、も洗つておいたらよからうと云つて、そのまゝに放棄しておいた。その爲めに手遅れがして前頭竇といふ危険な病氣になつてこまつた。そして内科と外科との面倒な治療をしました。が間に合はないで死んでしまいました。こんな恐ろしいのは千人に一人位の例であつて希有ではありますが、こんな甚だしい結果にもたち至るといふ事を承知しておいてもらいたいと思つてお話ししました。

耳の中に汚い指を突つ込むとこれもなかく、危い。指に黴菌がなくても耳の中に黴菌がはいつて居る事もある。それを蟲などの舞ひ込んだりした時に爪やかんざしの先きでほじくる、すると耳の

中にかすり疵が出来てそこから黴菌が這入り込みます。そして往々丹毒といふ病氣を起す事があります。子供は頭の中によく腫物が出来るもので、それを搔いたり、それから先生に叱られると直に頭を搔く性質をもつて居るものです。そしてやたらに頭を搔いて、頭のくさを引かいたりしてそこから丹毒を起した例は一番澤山にあるやうです。丹毒は一定の日數を経なければ癒らない病氣であつて、そしてそれが時として生命にもかゝはる恐ろしい病氣なのです。こんなわけであるから子供の手と爪とはよほど清潔にするやうにくれぐれも御注意を願いたいもので御座います。幼稚園で用ゐる粘土はどうなつて居るものかしりませんが、消毒をするわけにはいかなないものかしら、消毒が出来なければ粘土を用ゐたあとの手と爪とを十分にきれいに洗ふ事を忘れぬやうにしなければなりません。

それから幼稚園の手工に用ゐる豆ですが、あれ

もよほど注意しなくてはなりません。豆は毒ではありませんが、子供はわけもないたわむれをして口や鼻や耳の中などへやたらに豆を放り込む事があります。口の中に入れたのは吐き出せばよし、吐き出せないにしても呑み込む位の事でまあ大した騒ぎにもなりません。耳の中や鼻の中はよほど氣をつけないと危険い結果を來す事があります。鼻の中へ豆を入れる時は豆のはいつて居ない方の鼻の穴を指で押へて居て、思ひ切りの勢でちんをさせるのです。紙などあてゝすると、それだけ勢をそがれますから、何もあてずに思ひ切つたちんをさせるのが一番の上分別です。少し智恵のある人が中へ押し込んだりして大失策をする事があります。中へ押し込んで都合よく咽喉へゆくか口へ出ればよいが、不幸にして食道の方へゆかずに食道へ行つて聲門の中へでも落ちると大變になります。豆は鼻の中へはいると濕りを受けてよくれます。そしてだんぐりに出にくくなります。之

を出さうと思つてつゝといふやうな事も大に考へものです。恰度よい加減の處を引つけて呼吸でうまく出せばよろしいが、素人はどうも失敗りやすい、ほじくる毎にころ／＼と中へころがしこむやうな事になる、そしてだん／＼險呑な方向に轉せしむるやうな事になるから鼻の中へ物のはいつた時、つゝといふ事は絶體にやめる方がよろしいやうです。「吸ひ込みなさい」など、云ふのも同じく危険です。ですから前に云つた通り鼻の中に豆などのはいつた時は最勢のよい手ばなをかませるといふ事が一番よろしい。手ばなでいけなかつたら直に醫者につれてゆくのが安全です。

耳の中へはいつた時は最むづかしい、口もとにある間即軟骨部にある間は素人でも取る事が出来るが一步過つてその奥の骨部にはいるとなか／＼むづかしくなる、そして耳の中の温度と濕りとの爲めにふくれた豆が骨を押しつけるので甚だしい疼痛を起して非常に困難をする事があります。こ

れも口もとにある時に、種々かんざしの耳などで取り出さうとしては中にころがし込む事が多くあるそれで耳に物を入れた時はなるたけ素人は手を出さぬといふ事にするがよい。もし手を出すなら、机の上とか縁側えんがはに、子供を横に寝かして、耳の穴を真直に下の方にむけておいて、頭をとん／＼と叩いて、その響きで下へ落す工夫をするのが一番よろしい。其外には固く信じて必ず出る見込みがつかない限り決して手を出さぬが安全です。耳かきなども決して使つてはいけません。耳の中へ水または油などを入れて滑らせて出さうなど、するのは大變な危険です。リヌリンを入れるのも危険です。豆は是等の液體に逢ふとふくれる性質をもつて居りますからます／＼出にくくなるばかりです。小さな石ころなどの如きふくれる心配のないものなら滑らせて出すのもよろしいが、うづかりと生兵法は試みない方が安全です。大人が不調法をしなくても子供が自分で指を突つ込んで奥の方

へ押し込んでしまふ事があります。それで子供が鼻や耳の中へ物を入れた時は固く禁じて子供自身にも指を入れさせぬやうに注意しなくてはなりません。

今一つ幼稚園の先生が、口にくはへて子供に見せぬやうにしておもらひしたいと思ひます。子供は直に先生のまねをしたがるものですからよく氣を付けていたゞかねばなりません、親のまねをして揚子をつかつて咽喉へ揚子が折れ込んで大

變に困つた例を私は知つて居ります。

それから幼稚園や小學校では昇汞水位は用意しておいて、子供が一寸した怪我をした時には脱脂綿に浸してつけてやるやうにしておらひしたいものです、硼酸水位では役に立たないから千倍の昇汞水を一単位は備へつけておいていたゞきたいと思ひます。アルコールやヨヂウムチンキなどもよいのですが、之等は痛くて子供が閉口しますから。(文責記者)

話の起源

K、 T 生

近世の教育の進歩は倫理的若しくは純智的の方面に於てよりは寧ろ審美的の方面に於て急速な變化を遂げて居るといふことには誰しも異論がないことと思ふ。往昔の教育は強き倫理的理想及び訓

練等に於ては却々力瘤を入れてゐたのでこの點に於ては今日の教育に優るものがあつたかも知れぬ。しかし乍ら一方今日の教育は却々進んで居る——少くとも大なる變化を経て居るのである、今

日の教育は以前の教育に較べて遙かに審美的になり、愉快な分子が多くなつて居る。

往昔の學校に於ては審美的感情に訴ふるものとは唱歌と行進と共同働作位のものであつた、けれども今日の學校には多くの愉快がある、殊に審美的感情は豊かになつて居る、多くの自由遊戯がある、藝術がある、音楽がある、舞踏がある、純藝術的なる諸種の要素がある、其他美の感覺に訴ふる多くの活動がある、吾人は學校を美なりと信ずることが出来るのである。裝飾、外觀等も價值として認容せらるゝ場合が昔よりも多くなつて來た。

兒童の喜ばしきもの、美しきものに對する愉悅は實に非常なものである、而して吾人は未だ之を十分に統御し發達させる域には達して居ない、眞の教育は適當な感化によつて兒童が影響される時行はるゝものであつて、その効果は訓練や暗誦の時間によつてなさるゝ者よりも遙かに大である。

面白い話を子供等に聞かせてやつたときほど強い感情と興味の方が明瞭に感ぜらるゝことは尠からう。誰でも子供に話をしたところのある人は圖らずも偶然の機會によつて子供の内心に觸れ得たやうな不思議な満足を感じたであらう——その時子供は話が終るまで息も吐かずに聴き惚れて居るのである、談話者は話し終つて始めて夢より覺めたる如く思ふ、而して子供の心に永久の持物となるべき何物かを與へ得た如く感ずるのである。斯る經驗は催眠現象、宗教的愉快、若しくは審美的專念を喚起せしむるのである、斯る状態は談話を如何に有効ならしむべきかを理解するためばかりでなく全教育に如何に影響を及ぼすべきかを理解するために研究する價值が存するのである。吾人は如何なる話が子供を喜ばすべきかを研究して教授に際して常に之を應用することを心掛けねばならぬ、話は教授の術として娛樂の術として決して新しいものではない、話は昔からある一種の藝術で

ある、現代に於てはすべての活動が分業的になつて行くために一般的な繼續的な有益な形式は兎角忘られ勝ちとなるのである、而して現代に於て高級な専門的な藝術や昔よりも慥かに進んで居る筈の教授法が淺薄で狹隘なる所以は實に茲に存するのである。

古代にあつては話は年少者に智識を傳ふる主要の方法となつてゐた、而して同時にそれは最も普通一般の娛樂であつた。話は種々の役に立つてゐた、宗教の眞理を宣傳するにも、法律習俗の訓令を與へるにも、すべて談話に依らざるを得なかつたのである。話はすべて書物の代理をしてゐたのである、而して話は如上の目的を達するために藝術的とならざるを得なかつたのである、然らざれば記憶して居なければならぬことを消し難き印象として止めて置くことは出来ないからである。種族の文化は斯くして羊皮紙の上にはなく、兒童の頭腦てふ鋭敏なる記録板の上に漸次記されて來

たのである。生きて居る記憶は印刷された頁よりもよく文化の精髓を保存して來た、何故ならばそれは言語ばかりでなく、意氣、氣分、感情、言外の微妙な意味、筆紙に現し難き表現等をも傳へて居るからである。

話の歴史を研究した人は誰でも話といふものは眞摯な目的を有するものなることを知つて居る、話は宗教の目的を離れて後も尙その眞面目を失はなかつたのである。吾人が話の中に世界を見る時はそれは全然宗教的態度である、而してあらゆる國土、あらゆる時代に於て古き話は尊敬せられて居る、——畏敬と神秘の魅力は常に時代の附いた物語に纏り絡んで居るものである。種族といふものは子供の如く好きな話の言葉をそのまゝに保存して置きたがるものである。何故ならば夫等の話は時に臆氣なりとはいへ——それが眞理を語るやうに思はれるために——深刻にして根本的であるからである。話の歴史はそれ自身生々した劇的の

場景に充ちてゐて、一種の魅するが如きローマン
スである。而して至る所に信仰が眞摯を示して居
る、若きアメリカ、インディアンの口を通して語
らるゝ話、アフリカの森の下蔭に將又アイスラン
トの木舎の爐邊に兒童は常に年長者の話に瞳を輝
かして耳傾けるのである、更に東の方に眼を轉す

るならば其處には黄色の僧服着けたる僧侶達が椰
子葉の書物を小脇に抱へつゝ、佛陀の誕生を説くで
あらう、支那や日本には職業的の談話者なるもの
があつて席亭や市場に立つて人々を樂ましめ又教
へつゝあるのであり、吾人は又北部アフリカに於
ても異様の眼を光らせたアラビヤ人の群れの中に
職業的の談話者を發見するであらう。ヨーロッパ
に於ける古蹟が暗黒時代を通じても尙忘られずに
後世に傳へられたのはうらぶれの唄ひ女や談話者
の力に俟つ所が多かつたのである。一言にして之
を蔽へば宣傳すべき宗教、不滅ならしむべき傳統
習慣、記録すべき歴史が存在したところ、又國民

思想、地方的傳説、道聽塗説の行はるゝ所にはす
べて多かれ少かれ眞面目で熟練して居り、多かれ
少かれ創造的藝術家である所の談話者が發見せら
るのである、彼して彼等はすべて眞理として學
んだことを他に傳へんとする眞面目な使命を帯び
て居ることを自覺して居るのである。

世界には澤山の話がある、誰もそれをすべて知
ることは出来ない、けれども話をする人は自分の
目的に適ふ話を選ぶことが出来なければならぬ、
世界にあるすべての話を一つの全體として眺めや
うと努めた時それは談話者を益するであらう。何
故吾人の間に話が存在するか、如何なる法則が話
の發生を支配しつゝあるか、斯る問題を説き得た
ときそれは談話者の助けとなるであらう。

話は誰に書かれたともなく何虚にも存在する。
而して彼等の多くは不朽である、話は人間の空想
の産物であらうか、日常の經驗を夢幻裡に曲解し
たものであらうか、それとも又或る目的のために

意識的に作り出されたものであらうか、否々話は空想の産物でもなく目的のために作られたものでもない。話は成長して來たのである。話は世界何處にも變りなき原理に關する想像に働きかけた深き人間の願望の表現であり結果である、世界のすべての話は一つの全體として見られなければならぬ、人間の心の正當な産物として見られなければならぬ。

話の起源を理解するには想像的に原始人の生活状態に內的に外的に侵入しなければならぬ、然る時彼はその頃の生活は、大掴みな物の言ひ方をすれば、宗教的の氣分に充ち満ちてゐたに違ひないといふことを知るであらう。この宗教的の氣分は單に受働的のものではなかつた。知らんとする熱心を以て生々としてゐたのである、それは願望の態度であつた、斯くて話は生れ出でたのである。

實際話は空想であつた、併しそれは同時に空想以上のものであつたのである、それは片意地な世

界から間に合せの満足を得んとする努力である、話に於ては時に人にも征服せられる巨人といふものがある、それは更に大なる巨人の力に従つて死せる自然の如何ともしがたき法則を犯すのである、美しき妖精は自然の拒むことを許してくれるのである、話に於て人間は全然傍觀者の態度を執つて居るがその實彼等は皆、自身の願望、恐怖、失望等を語つて居るのである。故に話は未開人にとつて實際的のものである。

未開人が話を作るのは單なる好奇心や空想からではない、最も眞實なる要求——或る條件（この條件の無い時、彼等は缺乏及び恐怖に堪へない）の下に住はんとする要求からである。この時期に於て話は全然眞摯なる信仰である。

人間の根本的の願望は何處に於ても同じである、而して心的活動の法則も普遍的である、發達の同階段にあつて同様の生理的環象を與へられれば同様の心的産出が現れる筈である、是等の話が

單に空想であつたならば吾人は恐らく同じやうな命題を各地に見ることはない筈である。

神話も原始的の話と同じく大抵或る深刻な思想若しくは欲望の多少變形せられたる表現である、神話は啓示として人々に齎されたものではないが一種の宗教である、人々によつて人々の憧憬から作られた宗教である。

原始時代に於て話が作らるゝ時それは愉快な面白い話を得やうといふ意向によつてはなかつたらしい、技術には無頓着であつたが氣分は眞面目で有意義であつた、それは説服を事としてゐた、確信を齎すことを目的としてゐた、満足の感情に資すべきもの、リズムや生々した想像、結構の釣合——快美の感情を増加すべきすべてのものは自然話の中に現はさるゝのである。

話は信仰を現す、けれども信仰は文明人の間に於て變化する如く原始人の間にあつても變化する、斯くの話は半信仰的の産物となる、この半信

仰的の産物がお伽話である。

話の盛衰に關しては他にも原理がある、けれども以上に説いた原理は一般に話の起源を説明するものであると思ふ。話は人間の願望及び信仰に充たされて居る。而してこれがために話は子供に愛せられ又吾人に愛せられるのである。

文明が進んで國民の理想が起つて來ると話は是等の現す（多くの場合、想像的の）大英雄に係り始めるのである。これ即ち宗教的の話の人格化である、それは尙信仰を止めて居る、神は依然として舞臺に現れて來る、けれども興味を中心は人間の話である。叙事詩は多くの無關係の話を寄せ集めてその目的のために作り變へ、之に詩的統一と審美的形式とを與へたものである。叙事詩は談話本能の頂點である。

文明が進むに従つて信仰は信條及び儀典に於て截然決定せらるゝやうになり宗教生活は俗的生活からは明かに切り離されてしまふ、半信仰の範圍

は減少して子供の世界にのみ見らるゝに至るのである。吾人は尙古き動機に刺激せられ形式に於ける興味を以て意識的に文字を作るのである、吾人

は今日では倫理的、宗教的、審美的若しくは實際的の定つた目的を以て語を書くのである。(Partidge: Story-Telling in School and Home に據る)。

『ト プ シ イ』(一)

— 英文學に現はれたる子供(三十四) —

岡 田 み つ

(トプシイは米國の奴隷の生活状態を書きました有名の小説アングル・トムス・キャビンの中に出て来る黒奴の一少女であります。)

或日オフイリヤ(此家の主人の従姉で家の取締りに來て居る婦人)が家内の雜用を爲てゐると、セント・クレア(主人の姓)が階子段の下から呼んで居るのが聞こえた。

「一寸降りて御いでなさい。見せる物がある。」
オフヒリヤは、手に縫物を持つて降りて來ながら、

「何です」と言つた。

「奥向きになつて買つたものがあるんで……一寸御覽なさい。」とセント・クレアは言ひながら、八九歳の黒女兒を引き出した。その少女は極色の黒の性の黒奴で、その丸い光つた眼は、ガラス玉のやうにキラついて四邊の物をキョロ／＼見廻してゐた。座敷の立派さに驚いた爲めその口は半分開いて、白い光る齒が見えてゐた。その縮れた短髪はいくつかの三の組に編まれて、四方八方に突き

立つて居た。その顔には狡獪な風もあり、また、いやに眞面目腐つて居る處もあつた。衣服はといへば、汚ならしい破れだらけのがたつた一枚で、その装で、慎ましやかに垂れてゐる風情は、多少物めいた感じを人に與へるのであつた。

「何んだつて斯んなものを連れていらしつたのです。」とオフヒリヤは惘れて居た。

「貴女に然るべく教育して貰ふつもりでさ。なか／＼面白い標本でせう。こら、トプシー。」と犬でも呼ぶやうに口笛を吹いて、その少女を近づけて、

「唄つて御覽、そして一寸踊りも見せるんだ。」

トプシーは、性悪さうに滑稽けたやうにギラギラ眼を光らせ、金切聲で黒奴の唄を唱ひ出した。

手と足で拍子を取つて、クル／＼廻つたり、手を拍つたり、膝を打ち合せたりした揚句に、一つ二つ宙返りをし、唱ひ仕舞に汽笛のやうな變な音を長く立て、それから眞直に立つて、以前の通りに手を垂れて、さもおとなしさうに澄してゐた、……

但し横目を使つてジロ／＼四方を見て。

オフヒリヤは、驚き惘れて聲も出さずに黙然と立つてゐるのを、セント・クレアは、悪戯好きの心に、興がつて眺めて居たが、聽てトプシーに對つて、

「おい、之が御前のこんだの御主人だぞ。御前をこの方に進呈るんだから、よく勤めるんだぞ。」

トプシーは眞面目に「はい」と答へながら眼はキヨロついて居た。

「おとなしくするんだぞ。分つたか。」とセント・クレアが念を押すと、

「はい」と言つてトプシーはやつぱり手を行儀よくしたまゝで、眼だけを光らせ居た。

「一體之は何の爲です。」とオフヒリヤは言ひ出した。此處の家には、こんな小供が澤山居て、踏み付けないでは歩けない程ではありませんか。朝起て見ると、一人が戸の影に寝てゐる、一人がテールの下から黒頭を突き出してゐる、又一人が

筵の上に轉がつて居る、而して皆、欄干の間から齒を剃き出したり、顔を歪めたり、臺所の床の上で轉々したりしてゐる。それを何だつて、又此子を連れていらしやつたのです。」

「貴女に仕込んで貰ふんだ……と言つたではないか。貴女は、始終教育がくと言ふでせう。だから極新しい標本を進上して、貴女の思ふ通りに、然べるく教へ込んで御覽なさいといふ積りなんです。」

「こんな子を要りませんよ。もう手に餘つて困る程あるんですもの。」

「其が信者の御規定文句だ。何々會なんていふものを設けて、宣教師をこんな人間ばかり居る處へ一生涯派遣して置きながら、こんな奴を自分の家へ引取つて、自分で宣教の勞を取るともなるとやれ汚くて不快だとか、世話が焼け過ぎるとか、種々の事を言ひ出す。」

「私や、さういふ意味に考へなかつたのです」と

オフヒリヤは、餘程心を和げて「さうですね、これが眞實の宣教事業かも知れない。」と少しは厭さうでなくトブシイを見た。

セント・クレアは、オフヒリヤの弱點を押へたのであつた。オフヒリヤの良心の命通りにするつて事には几帳面な人なので、

「唯ね、此子を買ふ必要はないと思つたんです。家に有り餘る程居ますもの。」

セント・クレアは、オフヒリヤを小蔭に呼んで「失敬く、僕の下らない議論は何の意味もないんです。實は、かうなのさ。彼奴は、下等な飲食店を出してゐる飲み抜け夫婦の許に居たのですがね。その店の前を通る度に、彼奴が打たれたり恐られたりしてギヤア／＼泣いて居るのを聞くのが厭なのです。それに、彼奴は伶俐で滑稽けて居るから、何かになるか知らんと思つて買つたのです。差上ますから、純ニユー・イングラド式の教育をして、何者になるかやつて御覽なさい。僕には

そんな働きはないから貴女に一つやつて貰ひたいんです。」

「では、出来る丈して見ませう。」と答へて、オフヒリヤは黒小女に不氣味さうに近づいた。

「まあ穢なくて而して半分裸ですよ。」

「下へ連れて行つて、唯かに洗はせて、衣服を着せなさい。」

そこでオフヒリヤは、臺所へ連れて行つた。

「且那樣がまた一人連れていらしつて、何になさるんだらう。」と料理女は言ひながら、新來者を冷淡に眺めてゐて「私の足の邊へも來させないよ。」

どうしたつて」と言ひ放つた。ロザとジエンといふ黒奴の小間使も

「ヘトン、傍へ寄つてはいやだよ。且那樣は何だつてこんな下等な黒人が御入用なんだらう。」と言つた。

フオヒリヤは、誰も此小黒女に構つて呉れるものが無いので、止むを得ず自分で手を下して洗つ

てやつた。厭さうにジエンも多少は手傳つた。此子供の背中や肩に打擲された痕があるのを見てもはさすがにオフヒリヤも哀を催したが、ジエンは痕を指して、

「御覽なさいませ。よつほどの惡餓鬼だつて事が分るでは御座いませんか。必然此奴には骨が打れますよ。こんな少ぼけな奴は大嫌ひ。且那樣が御買ひになる氣が知れない。」と言つた。

その「少ぼけな奴」は穩順しく、陰氣らしく今の批評を聞いてゐた、唯ジエンの耳にはめて居る耳飾りをチロツ／＼と時々見やつてゐた。衣服はちやんと改め、髪を短かく切つてしまつたので、トプシイも少しは人間らしくなつた。オフヒリヤは如何して躑を始めやうかと心で考へながら、

「何歳だへ、トプシイ」

「知らないよ」と大口開いて齒を見せる。

「何歳だか知らないかい。誰も御前に言つて聞かせないのかい。御母さんは何といふ人だえ。」

「そんなものは無いや。」とまた大口を明く

「御母さんなんか無い？ どういふ意味にんだへ。」

何處で生れたか。」

「生れた事なんか無いよ。」とまた大口を明く。

オフヒリヤは嚴然となつて、

「そんな返事のしかたをするものではない。御前に戲つて居るのではないよ。何處で生れて、親は何といふ名だか言つて御覽。」

「生れた事なんか無いんだ」と力を込めてトブシイは繰返して「父爺も御母も何も無いんだ。大勢一緒に山師に飼はれて、アント・スツツていふのが世話をして居たんだ。」

トブシイは眞剣であつた。ジエンは笑つて、

「そんなのが澤山坐います。山師が澤山子供黒奴を買ひ込んで市場へ出すやうに育てさせるんです。」

「今迄の御主人の許にどれ程働いて居たのだへ。」

「知らないよ。」

「一年か、もつと多くか、もつと少なかか。」

「知らない。」

「奥様、こんな下等の黒奴には分らないんで、時といふ事を知らないのですから、一ケ年と言つても分りません。自分の年だつて知りません。」とジエンが言つた。

「神様といふものゝ事を聞いた事があるかい。」

トブシイは不思議さうな顔をしたが、相替らず齒を見せた。

「誰が御前を作つた。」

「誰だか知らない」とハ、と笑つた。餘程可笑しい事と思つたらしく眼にも笑を含んで、

「生えたんだらうよ。誰も作つたんぢやあるまい。」

「御前、縫ふ事を知つて居るかい。」とオフヒリヤはもちつと手近い事を尋ねやうと思つて、問うた。

「うゝん。」

「何が出来る？ 今までの御主人の許で何をして居た。」

「水を酌んだり、御皿を洗つたり、ナイフを磨いたり御給仕をしたり。」

「御主人は優しくして呉れたかい。」

「さうだらうよ」と答へてトブシイは狡猾くわんこすオフヒリヤを熟視した。

オフヒリヤは立ち上つた。セント・クレアは彼女の椅子の後に倚よたれてゐたが、

「どうです。手入らずの土地でせう。貴女のお思想を御蒔まきなさい。抜き取るやうなものはありません。」と言つた。

トブシイはオフヒリヤの所有と家内中の者に認められて、臺所では優しくしてやるものもないので、オフヒリヤは自分の室内で、此黒女を教へたり働かせやうと決心した。女中達が手傳ひませうといふのさへも拒絶して自分で氣に入るやうに、寢床の用意をしたり、室の拭き掃除をしたりしてゐた、オフヒリヤが、その仕事をトブシイにさせやうといふのは、餘程獻身的行爲であつたに相

違ちがない。オフヒリヤは翌朝トブシイを自分の室へ連れて行つて、嚴かに寢床を整頓する術を授け初めた。トブシイはと見ると、自慢にしてゐた三ツ組みの尻尾めいた髪は奇麗に短かく切り摘まれ、清らかな着物を纏ひ、糊のきいた前掛を締め、恭しくオフヒリヤの前に立つて、葬儀に相應ふさわはしいやうな眞面目な顔をしてゐた。

「さあ、私の寢床の拵たてへかたを教へるから。私は大變八ヶ間敷いやちまのだからやり方をちやんと覚えなくてはいけないよ。」

「はい」とトブシイは吐息と共に答へて、情なうに本氣で見居た。

「よく見て御出で。これが敷布の縁ふちだよ。こつちが表で、こつちが裏だろ。覚えられるかい。」

「はい」と吐息ながらトブシイは答へた。

「それから、下へ敷く敷布は長枕ながまくらの下へ持つて来て——かう……而して褥ふとんの下へ奇麗に打ち込むの……ようく平らに——かう——ね、分つたかい。」

「はい」とトブシイは一心に注意して居た。

「けれども、掛ける敷布はかういふ風にして褥の下手へ繋かりと折り込んで……かう……下手へ狭い方の縁をやつて……」

「はい。」と前の通りにトブシイは答へた。――が――オフヒリヤが手工に夢中になつて脊中を向けて居る間に、新弟子は傍にあつた手袋一揃と、リボン一筋とを手早く取つて、巧みに袖の中へ押込み前の如くに手をちやんと重ねて立つて居た。

「さ、トブシイ。御前やつて御見せ。」とオフヒリヤは寢具を取外して、自からは席に着いた。

トブシイは、嚴肅に巧妙に業をした。敷布を平らにし、皺を伸して、眞面目にやる處はオフヒリヤをも満足させる程であつた。併し、運悪くもう終といふ頃にリボンの一端がトブシイの袖から垂れ下がつて、オフヒリヤの目に入つた。

オフヒリヤは直に

「之は何だい。此悪者！ 之を盗んだらう。」と言

つて、トブシイの袖からリボンを曳き出しても黒女は少しも困つた様をしなかつた。唯驚いたといふ風で、無邪氣に平氣で眺めて居た。

「あれ、御前様のリボンだね、どうして私の袖に引掛かつたらう。」

「トブシイー！ 虚言をお吐きでない。自分で盗んで置いて。」

「盗みやしないよ。眞實に。今の今まで見もしなかつたんだ。」

「トブシイ、虚言を吐くのは悪いといふ事を知らないか。」

「虚言を吐いた事はない。ほんとの事を言つて居るばかりで他の事なんか言ひはしない。」

「トブシイ、そんなに虚言を吐くと擲るよ。」

「一日中擲つて居たつてそれよりいふ事はないや。」と泣き崩れて、「見た事もないのに。必然袖に引掛つたんだ。御前様が寢床の上に置いたのが敷布に搦らまつて、己の袖に入つたんだ。」(續く)

(ト調 四拍子) ね ず み

広島女學校幼稚園

(ト調)

5	1 5 1 3	1 5	1 5	1 5
ネズミガカガルカガルカガル				
1	5 1 3	1 5	6 7	1
ネズミガカガルカガルカガル				

- 二 ねずみが ねずみが ねずみが ねずみが ねずみが
- 三 ねずみが ねずみが ねずみが ねずみが ねずみが
- 四 大きな猫がでる 大きな猫がでる 大きな猫がでる 大きな猫がでる 大きな猫がでる
- 五 ねずみがにげる ねずみがにげる ねずみがにげる ねずみがにげる ねずみがにげる
- 六 大きな猫が加る 大きな猫が加る 大きな猫が加る 大きな猫が加る 大きな猫が加る

(説明)

幼児は子ネズミとなり臺所より入り来る、猫として擇ばれし他一の幼児は臺所に出て来る、樂譜は

(ネズミ)の猫の際に乗じて靜かに入り来る状を示す。

子供のがまゝ

倉橋 惣三

一 わがまゝといふことは子供の生活の謂はゞ一つの著しい特色である。手のつけようもない様な甚しいのは別としても多少ともにわがまゝはどんな子供にもある。全然わがまゝのない子供があつたならばそれは子供らしくない子供と言つてよい位である。

一體わがまゝといふことは、言葉の通り、自分の思ふまゝを徹すといふことであつて、遠慮とか我まんとかいふことの反對である。他人の都合よりも自分の都合、欲望を主にして、それを、どこまでも押し通しもし、言ひ張りもし、實行もしてゆかうとするのである。それが時と場合とによつて種々の形、さまざまの名稱になり、無理とも強

情とも、身勝手ともなれば、又だいつ子とも、さかぬ子とも呼ばれるのであるが、要するにわがまゝに他ならない。或は之れが對手次第で反抗對抗の態度をとる様にもなれば、怒りともなり喧嘩ともなる。いづれにしても他人に負けて居ない自我主張の心から出づることである。

處で斯ういふ廣い意味に於てのわがまゝなるものには、二つの方面からの見解を明かにしなければならぬ。其の一つは對手といふ點からで、第二は自分といふ點からである。勿論對手なしの強情、自分だけのえて勝手ひとり喧嘩などいふことは無い譯のものであるが、考への上では自他の二面を區別して考へることが出来る。

先づ對手といふ點から見ればわがまゝが善くな

いことであるとは言ふまでもない。人間は何人でも自分ひとりだけで此の世に生活して居るものではない。他人と一緒に居る以上、自分ばかりを押し通して、他人の都合をも希望をも顧慮しないといふことの出来るものではない。そこにお互の譲歩もあり、がまんもあつて、始めて無事に圓滑に事が濟んでゆくのである。わたしが／＼、俺が／＼と各自各々なことばかり考へて居たのでは、衝突だらけの殺風景な世の中が出来て仕舞ふ。斯ういふ意味に於て、わがまゝが道徳的に善くないことであるといはれるのである。況して子供の場合、對手は多く長上者である。直接長上者でないまでも、自分よりは多くの智慧と親切とを以て自分のことをして呉れるものである。それに對して自分の慾望を押し通すわがまゝが、善からざることは言ふまでもないことである。此の場合わがまゝの反對の從順とか、すなほとか、よくいふことを聽くとかいふのが善良なる態度であつて、又子

供ながらに美しい感心なことであるのは勿論である。そこでわがまゝは子供生活の特色ではあるが困つたこと悪いことに數へられわがまゝに對する教育といへば、昔から一つに其の矯正策にあることも當然なる次第といふべきなのである。

しかし、もう一つの方の自分といふ點から考へて見ると、そこに又多小別個な問題が起つて來る。蓋し、わがまゝは其の當人の方から言へば、強い自我主張に外ならないのであつて、其の自我主張といふことは決して悪いことではなく、寧ろ人間の生活の上に大切なることなのである。それが相手と、如何なる交渉を起こし、他人と如何なる關係を生ずるかといふことを暫く別問題として、自我主張といふことだけに就て少しく考へて見なければならぬ。

蓋し、自我主張といふことは、もう一つ源へ遡れば、すべての人間が生れながらにして必ず具へて居る自我、感情から發するものである。そこで

其の自我感情とは如何なるかと言ふと、凡べて自我につける感情をいふのであつて、吾々が有する、『自分の』『自分に』『自分が』といふ類の感情が即ちそれである。『自分の』といふは多くは所有品などに關したことで、同じ物品であつても他人のであるのと自分のであるのとは感情が違ふ。『自分に』と『自分を』とかいふは、主として自分に或る取扱ひを受けた場合で、同じ取扱をせられても、他人がせられた時と、自分にせられた時と、まるで違つた感情が起る。又『自分が』といふのは、つまり自分と他人とを區別する場合で、その時他人がといふ時は一種異つた感情の伴ふことは言ふまでもない。要するに人間は自分といふことには特別な強い一種の感情を有して居るものである。

此の自我感情は子供にもある。子供にもあるのみでなく、純粹な丈けに成人より却つて強くあらはれる位である。尤も生後一二年の間は別段明瞭な感情としてはあらはれないが、三四歳頃になる

と著しく之れが起つて来る。此の齡頃の子供の言ふことを聽いて居ると之れは坊ちやんのだとか、坊ちやんの何がどうしたとか、誰れが坊ちやんをどうした、坊ちやんが何をどうしたとか、一々うるさい程に自己を語るものである。假令は今までは餘りさういふことはなかつたのを、何かといふと坊ちやんの父様とか坊やの母様とか、坊の玩具だとか、事々に所有者たる自己を一々語る様になるものである。之れは勿論、子供が自己といふものを深く考へて言つて居る譯でないが、如何に心の中に自我感情が強く起つて居るかといふとが、言葉使ひの末にも察せられるのである。だん／＼年齢が進んで来ると、それが一層強く、自分にもはつきりしたものになる。さうすると、自分が何々々と、何でも自分を負けないものにし、他人と較べて勝う／＼とする心持が著しくなる。所謂競争心が之れであつて十歳前後頃から最強くあらはれて来る。假令は遊びにもそれが出て来て、何

でも競争的なことが面白くなる。また友達同者などでも、互の間に此の心持が始終起り易い。また共同とか團結とかいふことはよく分らないで、何でも自分を主にした、對立的の生活が主として行はれる。それが段々青年になつて來ると共同的感情などが起つて、急に反對の方に生活を向けたりする様になるが、それまでの子供生活は専ら自我感情に支配せられて居るものである。

自我感情が主になつて居る子供の生活が、常にわがま、であり勝ちなのは自然のことである。即ちわがま、といふことは一と通り子供の自然性であるといへるのである。のみならず、其の間に強い自我の養成がされるのである。勿論わがま、の中に不自然なるものも多くあつて、之れは後に考へようと思つて居るが、若し、子供の時から少しの自己主張といふ類の氣分もなく、所謂意地も張りもしないといふ如きものがあつたならば、現在に於ては至極取り扱ひ易い、所謂おとなしい子で

あるには相違ないけれども、其の將來は甚だ懸念の至りである。殊に非常に厳しい壓迫の下に成長して、芽が出ればつみとられるといふ様に抑へつけられて育つた子供などの中には、妙に、いぢけて無氣力な卑怯なものが出來て仕舞ふことが屢々ある。之れは子供の時に於て、適當な自我主張の練習の機會を與へられず、折角自然が與へて呉れた此の大切な本性の發達を阻碍せられて仕舞ふために、さういふ哀れなことになるのである。昔から、子供は、きかぬ子位が却つて末たのもしいとか、喧嘩の一つ位する子でなくては駄目だなどいふのは、言葉が如何にも亂暴ではあるが、つまり自己主張力の必要を言つたものに他ならない。

廣い意味に於ける子供のわがま、は斯う考へて來れば、根から捨てたものでないといふことが分るのである。

二

しかしながら、子供のわがま、は實際に於て、

たゞ其の自然性の正當なる發露ばかりのものはない。寧ろ多くの場合に於ては不正當なるわがまゝであつて、而して、其の不正當の原因は多くは教育の誤りにある。以下、此の點を調べて教育上の注意を明かにしなければならぬ。

子供は其の本性として自己主張の強いものである。又其の思慮經驗の不足から、自分の振舞が他人に如何様な影響迷惑を與へるものかを考へ得ないものである。故にわがまゝは已むを得ないことであるといふ様なものゝ、子供であるからとて全く他人のことを顧み得ない譯のものではない。年齢相當に、他人を顧みるといふ力も心持ちも發達する筈である。ところが、或る人は子供だから仕方がないといふ方に傾く。さうするとつい甘やかしになる。即ち正當以上のわがまゝをゆるす様になる。また或る人は、いくら子供でもといふ方に傾く。さうするとつい厳し過ぎる様になる。即ちわがまゝが無理な抑へつけられ方をする様にな

る。わがまゝに對する教育の誤りは、斯くして二つの方向に起るのである。

(イ)わがまゝの増長は外からの抑へ方が軟い爲だといふことは誰れにも分る、しかし、心理的に考へて、わがまゝの増長は決して外の力次第のものではない。若し外の力次第のものならば、昨日まで甘やかして居た爲にわがまゝが過て居るのも急に厳しくすれば、直に其のわがまゝがやむ筈である。處が實際は決して左様いかない。假令ば、世間に多くある例であるが、『まだ幼いからと言ひなり放題わがまゝを通して置くが、必要の時になれば何時でも其のわがまゝを抑へることが出来る』と斯う考へても仲々うまくいかない。之れは何故であらうか。木の枝や竹のやうなものならば、外から力の加へ方だけによつて伸びさせることも抑へつけることも自在であるが、子供の自己主張は左様容易く自由にする事の出来ないのは何故であらうか。それはわがまゝを徹す方の力が自

然性として子供の内にあると同じやうに、之れを抑へる方が力も、子供の内にあるからである。言ひ換へれば自己主張の力と共に、自己抑制の力も子供が自分で有して居るものなのである。甘やかしの結果は外の抑へが弱いといふだけではない。子供の此の自己抑制力を弱くして仕舞ふのである。即ち子供にとつて、外の話でなく内の話である。

甘やかされてのみ育つて來たわがま、ものが其のわがま、を傍若無人の勢で振舞つて居るのは、一寸考へると、大層強いことの様に見える。他人との遠慮も憚りもなく自分の思ふ存分を徹してゆくのは如何にも強い人のやうに見える。併し、之れを自己の主張力といふ方から見ないで、自己の抑制力といふ方から見ると、決して強いのでなくて寧ろ大に弱いのであることになる。自分が抑へられない。人間としてこれ程弱いことがあらうか。丁度力のない馬乗りが手綱を引きしめることが出來ないで、荒れ馬と共に飛んでゆくやうな

ものでなる。如何にも勇壯にえらさうに見えるのは外からのことで、實は大いに弱いのである。實際子供にも成人にも此の種のわがま、が案外澤山ある。而して之等は皆、適當なる自己抑制力の養成をされなかつた結果に外ならない。是に於て教育上第一の結論として斯ういふことがいへる。

子供のわがま、に對する教育は、外から如何に抑へるかといふことが肝要な問題ではない。如何にしたら子供自らに内から抑へることの出来るやうに養成し得るかといふことが必要な問題なのである。即ち一言にしていへば、子供の年齢相應に自己抑制力を養つてゆくことになる。(ロ)しからば、甘やかしの反對のきびし過ぎる方からは如何なる結果が起るかといふと、之れは又一層憂ふべきことになるものである。蓋し、自己主張が子供の自然の本性であることは前に繰りかへし充分述べた通りである。自然の本性であるからには適當な満足が與へられなければならない。

雜 錄

○全國教育大會保育部會

今秋大禮御舉行を期として京都に於て開催せらるべき全國教育大會内の保育部會は左の通り開かるゝ由なり。

開會期日

總 會 大正四年十一月二十六日
同 十一月三十日

保 育 部 會 同 十一月二十八日 自午前九時
十一月二十九日 至正午

保育部會々場 市立高等女學校 堀川通四條上ル
電車四條堀川ニテ下車

出席の申込 至急府縣廳又は府縣教育會を経て全國教育大會

事務所宛申込みを乞ふ、若し本會より通知を發する必要があるときは府縣廳又は府縣教育會に宛てて發することあるべし

講 演 講師二名目下交渉中

五分間演說 希望の方は演題及氏名御通知を乞ふ

其他

御大禮函簿拜觀御所離宮拜觀出願中博覽會神社佛閣等觀覽交渉

中

會員章

會員には會員章を交附せらるゝ筈につき出席申込の上會員章を豫め受取られたし

全然満足を與へられずして無事に順當に濟むべきものではない。若し無理にも満足が與へられないといふことになる、不自然な形に變つてゆかざるを得ない。實際餘りに嚴しい干渉や薄倖な境遇などからして、始終抑へられ、のみして居てついで子供らしい正當な自己主張に満足が與へられないといふ様な子供は、妙にひねくれた陰性な、表面は素直におとなしい様であつて、其の實、心の中は大に主我的な、所謂いやに意地張つた、偏屈な性格の人になることの多いものである。即ち外へ出ないで、内に鬱屈せるわがま、であつて、此の位子供らしからぬ性質はないと言つてよい。性格の上にひき及ぼす結果からいへば此の方が、彼の放肆なるわがま、よりは却つて眞に憂ふべく又怖るべきことが多いのである。

即ち次のことを以て教育上第二の結論としなければならぬ。

子供のわがま、は餘りに無理な抑へ方をしてはならない。抑制の習慣を養ふと共に害なき程な多少の自己主張を満足させてやる注意を怠つてはならない。

夫ビエウロウ
人ウロウ

フレールベル追懷錄

S K 生 譯

十 祭典の教育的價值

フレールベルとミツデンドルフとは既に前年の夏遊戯祭の計畫に就て話し合ひました、その遊戯祭といふのは附近の或る美しい場所で、附近諸地方の兒童と先生との協力によつて祝はれる筈でありました、この計畫が兒童、青年及び一般人々のために祭典を教育的に利用するといふフレールベルの思想と聯關して屢々私達の間で論議せられました。

現代に於て益々顯著極端になりつゝある政治的自由の誤用といふことは、フレールベルの考によると、青年及び兒童が學校の壓制と學校外の無責任の自由との兩極端の間に處して、正しき秩序ある社交に於て自由に行動し得る機會尠といふことが

とに一部の原因が存するのであります。すべての階級に許されて居る現在の自由の程度は未だこれに應ずべき程度に於て存在してゐない所の自由に對する徹底的の教育を要求して居ります。この教育は學校時代の前に兒童の廣い社交に於て——各兒童はこの際幼稚園に於ける如く、或る規定の下に自由に活動す——始めらるべきであります。

家族の狭いサークルはこの目的のためのすべての條件を充たすことが出来ません、何故ならば家庭に於て愛に取圍まれて居る兒童は、他人の爲めに、自己を抑制し、否定するやうに學ぶべき機會を見出すことが出来ないからであります。之に反して、學校の社會的生活に於て、受働的な服従と

いふことは皆の者に活動の自由のために十分な機會を與へるには是非とも缺かれてはならないのであります。自由の濫用といふことは青年の學校の規則正しき活動の下や大人の堅實な仕事に於ては滅多に起らないのであります。經驗は、過度は一般に娛樂の時間に於て起るといふことを十分に示すのであります、この危險に誘うて行くものは荒んだ粗放な享樂であります、自由な制度が保たれて行かなければならぬとするならば、青年は高尚な快樂にまで教育されなければなりません。自然及び藝術より享受せらるべき快樂を拒まれた人達を中庸を失した粗放に赴かしめざるやうにするのは容易の業ではありません。

フレーベルに據れば、一般道徳は、肉體的の欲望に對して對抗力を與へ、低級な嗜慾を出來るかぎり防止するために、人間のこの理想的方面を生活の極く初から目覺まして置き、充足させて置くことに大部分依存するのであります。

兒童の心靈に於て反省力の未だ目覺めない間に發達した美の感覺はこの目的のために最も善き手段を提供いたします。それ故に兒童の眼はその最も幼き頃に於て形體、色彩等に向つて開かれ、その耳は又音樂に向つて開かれねばなりません、而していたいけな兒童の力は美しい物を作るために準備され利用されなければなりません。

フレーベルはこの美しい物を作るといふことは心靈をあらゆる方面に於て容易く理想的ならしむる最善の手段であると思つて居ります、而して彼は又創造力の練磨は粗放及不徳に打勝つ最も重要な手段の一であると考へて居るのであります。

日々の苦惱から抜け出で、假令單に空想的にでも理想的な事情に身を置くことや、時折何物にも煩はされずに子供のやうな無邪氣な遊樂にその身を打込んでしまふことの缺乏は祭典によつて満足させられます。祭典は又同時に感謝、偉なる又善なる行爲の推賞、拔群の愛國者、公共事業盡瘁

者、偉人、發明者の追憶等の如き特別な感情に表現を與へるべく役に立つものであります。

祭典が若し單なる感覺的の快樂以上に昇進すべきものとするならば遊戯、否寧ろ遊戯の衣着けたる藝術は斯る祭典の主要成分を構成します。

兒童の祭典を高尙にし、理想化するため、兒童の身心は先づ快樂のために準備せられなければなりません。

少年及び青年からその正當な喜悅を奪ひ去らうとすることは(フレーベルがよく抗論する如く)教育上大なる誤謬であります、何故ならば自然は少年及び青年の心に喜悅に對する缺乏と熱望とを植ゑたからであります。自然の規則正しき要求が充たされなかつた時身體的の發達が中止せしめられ、損はれるやうに、喜悅に對する要求が充たされなかつた時には心靈及びその自然的の發達は拘束さるゝのであります。

度に過ぎた抑制と窮乏との中に成長した青年は

自由と機會とが彼等に與へらるゝや否や極端に快樂を追求することによつてこの見解の正しいことを示すのであります、然るに一方に於て無邪氣な幸福な少年期を経て來た青年が快樂の不節制に走るといふことは滅多にありません。

自然の満足が許される時、過度は防がれるのであります、極端は常に反對を呼び寄せるのであります、すべてに於ける中庸は實際第一の教育的規則であります、而して青年の快樂の適當な制限は缺かれてはなりません。

フレーベルは心を高尙にし、美しきもの及び理想に對する願望を満足させ、而して何よりも、破壊的の欲望を遮る力に活動を與へることによつてすべてのつまらない無爲の快樂を防ぐ所の、子供らしい喜悅を正しく評價した時、彼は正しき道を發見したのであります。

人々の渾一の手段としての享樂はその最高最妙の表現に於て、すべての時代を通じて、すべての

異つた社會階級及び教養の異つた階級を神の禮拜に於て結び附ける所の眞の宗教に酷似して居ります。享樂は享樂の時期の間、すべての軋轢からすべての敵意とすべての隔離とを除き去ります。

人々の心を描いてみたならば、同一の目的に對しては感情といふものは同一であります、フレーベルは地上の人類の最高最妙の宿運の最初を見ました、それを彼は「生の渾一」といふ言葉で現して居ります、而してこの言葉は彼の場合に於てはそれの種々なる關係及びそれの種々なる實現の階段に關聯して多種多様の意義を有して居ります。

個人に關して、この「生の渾一」或は調和は、最後の結果として、事實に於ては瞬時の間考へることが出来るだけの靈性と肉性との間に存する矛盾の解決を齎します、絶對的にいへば罪惡から超越することが人間の最後にして最高なる宿運であり、而してすべての宗教の目標であると同じく、すべての教育の目標であります。

自然若しくは物質世界に於て、その状態がすべての部分が、渾然たる統一としての全體の目的に事へるやうになつて居るすべての組織體の中に、フレーベルはこの「生の渾一」の寫しを見ました。

中心から圓周へかけて諸半徑を有する圓は彼にとつてこの思想のシンボルでありました、何故ならば圓周は圓周と中心とがお互ひに相對して居り半徑によつて結合されて居りますので「反對の結合」といふ一般的法則の表現となるからであります、この法則は彼にとつてはすべての調和、從つてすべての「生の渾一」の缺くべからざる條件であつたのであります。

自然に於ける組織的生活は、宇宙を統轄する調和の最初として、又この目的を小宇宙（縮小したる世界）として模倣するものとして、人間社會に於て「生の渾一」の第一の取附きを提供します、この組織化は自然が物質的に表すものを精神的に表はさなければなりません。

精神と現象との間に存する類似の認識と上に述べたる靈肉兩界を支配する法則の深き理解は國家組織及び市政も亦全體の安定のために部分の結合を必要とするといふ意見に達しなければなりません、而してこの意見は個人をして良心的に又自發的に市の義務や國家の命令に従はしめるのであります、斯くて國民的渾一に達するためにその條件が充たさるゝのであります。

それ故國家は自らを人類全體の中に於ける個的組織として認めなければなりません、この個的組織は自らのためにその部分を政治的に聯結して「生の渾一」を作ります、而してこれらの個的組織は相集つて地上に於ける諸國民の渾一、最高の政治團體とならなければなりません。

是等の條件を充たすことによつて人類は自覺的の若しくは精神的の全體となるのであります、而してこれによつて「生の渾一」がこの世に於て十分に且つ完全に樹立せらるゝのであります、フレー

ベルのこの論は多くの點に於て大體他の哲學者等殊にクローゼの論と一致して居ります、それは又深く解するときには基督教の教義及びその贖罪の思想とも異るところはないのであります。

近頃の現實主義からいへば、若しもこれがその結果として實際的の教育的効果を來たさないならばこれは要なき假説と何の選ぶところなしとされれたふのであります、フレーベルが可能ならしめた直接的の實地適用は、反對的にでなかつたならば對比的に如上の哲學體系に對して居ります、而して非常に重要なものであります。

現代は、今まで數世紀の間の場合に於けると同じく、人間社會の改善に資するやうな實際的結果を持たない單なる思索に耳を假さないであります。

科學は今日では實際的生活に事へて動いて居ります、けれども科學はそのためにその本來の目的を棄て、了ひはしません、フレーベルの教育法は

哲學說の實際的結果であり、これによつて抽象的の思想の完全な體現及び思想を直接に行爲に實現するといふことが始めて現れて來たのであります、茲に於てかフレーベルはこの實際的の哲學は他のすべての諸哲學體系から完全に且つ十分に區別せらるゝのであります。

現今すべての階級に勢を振つて居る聯合運動に於て、フレーベルは現代を支配して居る渾一の思想の符號を見ました、而してその終局の目標を彼は「生の渾一」と呼んで居るのであります、この渾一はフレーベルに取つては先づ外的及び物質的の目的に向つてそれ自身を感せしめることに於て最高の理想として彼に目されてゐた當來の精神的渾一の先驅でありました、而してその究極の目的は宗教の普遍的意識及び神聖なる渾一であります、その中に潜んで居る純なる人間性の實現のため、各個人の十分にして且つ完全なる發達が要求せられます、個人に於て人間性が獨立的にそれ自

身の特性を示せば示す程、個人は益々生理的にも智的にも自由無礙に活動することが出來ます、個人は益々全體となるべく結合し、又その法則に對して自發的に自己を棄權するやうになります、個人が狭いサークルから、極く初期の社會生活である所の家族の底から、進んで來た時に於て大なる全體と政治團體とがその代りとして活力を持つことが出來ます、最も道德的な而して最も神聖な家族生活のみが生活の於て廣きサークルを意識的の政治團體に導くことが出來ます、而して完全した人類の最高理想に個人を近附けることが出來ます。

けれども眞に高貴なる家族生活は二個の人の最初にして最も原始的な聯合——結婚から流れ出るのであります。フレーベルに據れば、補足者即ち男と女とは結合してあらゆる地上の物象中最も崇嚴にして神聖なものとなります、即ち人が神の姿にまで高めらるゝのであります、それは基本的な條件であります、人類の存續のための、従つて人

類界に神聖なるものが進歩的に存在するための最高の法則であります、結合の永遠の法則は神聖なる愛、徹底的の愛であります、この愛は磁石力の如く神に於けるその源泉から流れ出て最も無意義なる組織體から、人間性を征服して神と同じ姿にまで上つて行く所の最高の精神に及ぶまであらゆる世界に瀾漫して居ります。

この愛の説は人間教育の最高の目標として又北極星として目せられ、人類の萌芽即ち子供に於て、子供の第一の本能に於いて伴はれなければなりません、自己の幸福を求むるに急なる主義主義の征服は教育の最も重要な仕事であります、何故ならば私慾はすべての親交から個人を遊離せしめ、愛の鼓舞的原理を殺すからであります、それ故に教育の第一目的は愛を教へることにあります、個人の主我主義を破壊することであり、人々を導いて家族間に於ける親交の第一階段から、それに續く社會生活の諸階段を経て、人類の愛若しく

は人間がそれを通じて神聖なる渾一に達することの出来る所の最高の克己にまで赴かしめることでもあります。

これは基督教が("following of Christ")と名けて「互ひに相愛すべし」とか「眼もて見來りたる兄弟を愛し得ざる者は未だ嘗つて眼もて見たることなき神を如何にして愛し得べしや」などといふ言葉で現して居るところのものと同一であります。

兒童教養相談所

條項

日本兒童學會ニ兒童教養相談所ヲ設置シ、異常兒童ト、然ラザルモノトヲ問ハズ

- 一、其教育及ビ養護ノ方針
- 二、職業ノ撰擇
- 三、其他實際上ノ要項

ニ就キテ相談ニ應ズベシ。

右ニツキテ相談セント欲スル人ハ下記ノ條項ニ準ジテ其旨ヲ本所ニ通ジ又ハ直接ニ本所ヲ訪ハルベシ。

一 兒童ニツキテ相談セントスル人ハ、先ヅ其要旨ヲ書面又ハ口頭ニテ本所ニ通ゼラルベシ（書面ノ場合ハ返信料送附ノ事）。

一本所ハ之ニ對シテ直チニ相當ノ挨拶ヲナスベシ。

一本人ヲ診察シ又ハ本人ニ面晤スルノ必要アル場合ニハ時日ヲ指定シテ本人ノ同行ヲ乞フベシ。

一 相談ノ報酬ハ通常金壹圓以上參圓以下トス。特別ノ調査ヲ要スルモノハ其報酬ヲ金參圓以上拾圓以下トシ、場合ニ應ジ之ヲ定ムベシ。商議ノタメニ要スル郵便料及ビ馬車料ハ依頼人ノ負擔トス。

顧問

主任

東京市本郷區
西片町十番地

兒童教養相談所

- 東京高等師範學校教授
- 東京醫科大學講師
- 東洋大學教授
- 東京女子高等師範學校講師
- 東京醫科大學助教授
- 東京女子高等師範學校教授

- 醫學博士 乙 唐 竹 岩 造
- 醫學博士 高 澤 光
- 醫學博士 倉 島 平 三
- 醫學博士 富 橋 惣
- 醫學博士 三 土 川 惣
- 醫學博士 下 田 宅 鑛
- 醫學博士 三 田 次
- 醫學博士 三 田 谷
- 醫學博士 啓 郎 一 游 三 郎 德 造

啓 郎 一 游 三 郎 德 造

顧問 高島平三郎先生

五ドコ

此の月刊「繪ばなし」は幼い女の子にも男の子にも誠に良いお友達である。さし繪の綺麗なる事と片假名にて記事の教育的なるとは讀んで面白く大に爲になる家庭向の雑誌なり
◎子供を愛する家庭にはなくてはならぬ讀物なり

定價一冊金十錢郵税 最寄書店になくば
毎月一回 五厘六冊郵税共金五 本社へ御申込あれ
一日發行 十八錢十二冊 郵税 御注文は振替貯金

共金一圓十錢(前金) ならば尤も便利也
●郵便切手代用一割増●

東京小石川林町五七
振替東京二七九六三

コドモ社



の一本日 年幼本日

報畫の供子き白面くし美

文學士 倉橋惣三先生監修
繪畫は 六畫伯の執筆

◎可愛いお子様を

美しく善く育てたいと思はれるお母様方の爲めに深い注意と多くの苦心を重ねて理想的に編輯せられ今度新たに生れたのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様に

お興へになつて玩具やお菓子よりも喜ばれ面白がつて楽しむ間に感情を高尙にし美しき習慣を養ひ清き心の糧となるのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様が

幼稚園から尋常小學でお習ひになつたことを喜び笑ひ興する間に知らず識らず復習し補習するのはこの日本幼年です

◎最後にお母様に

御注意を願ふのは日本幼年は文學士倉橋惣三先生の監督で六畫伯の彩筆になり紙數も多く印刷も鮮明で従來有りふれたものに全然超越して居ることです

◎定價

婦人畫報 一年十錢
少女畫報 一年十錢
日本幼年 一年十錢

◎前金

半年前金六圓廿三錢
一年前金一圓廿三錢

發行所 東京 京社

東京市京橋區鍛冶橋外 振替東京二二八番

幹主子とも仁羽

子之友

婦人之友社が年來の宿志によつて、昨年四月から出して居ります十分教育的なる子供雑誌で御座います記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるゝ御家庭におすゝめ致します。

定冊價 十一錢半 分郵 稅と 十錢 婦人之友社 東振 京替 雜一 司六 谷番

フレイベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保

育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノ

ハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品

幼兒成續物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演

說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレイベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組

織ス

但シ別ニ組合同約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

本會々長

中川謙二郎

本會幹事

(イロハ順)

井村くに 池田トヨ 芳賀晴
坂内ミツ 和田實 和田くら
倉橋惣三 安井哲 福田ふく
小向きみ 雨森劍 坂井ふで

本會評議員 (イロハ順)

乙竹岩造氏 吉田熊次氏 田中ふさ氏
野口幽香氏 榎山榮次氏 藤井利譽氏
下田次郎氏 日田權一氏

本會客員 (イロハ順)

伊澤脩二氏 巖谷季雄氏 岩谷英太郎氏
波多野貞之助氏 細川潤次郎氏 本間辰藏氏
戸野周次郎氏 大瀬甚太郎氏 奥好義氏
尾田信忠氏 大久保介壽氏 嘉納治五郎氏
唐澤光徳氏 谷本富氏 高島平三郎氏
棚橋源太郎氏 多田房之輔氏 田中敬一氏
中島力造氏 中村五六氏 野尻精一氏
野上俊夫氏 久留島武彦氏 松本亦太郎氏
松本孝次郎氏 馬上孝太郎氏 富士川游氏
小西信八氏 淺岡一氏 雀部顯宜氏
櫻井光華氏 三島通良氏 篠田利英氏
東基吉氏 瀬川昌書氏 尺秀三郎氏
菅原敬造氏

幼稚園用保用品

- 一、恩物
- 二、手藝品
- 三、新案手藝品
- 四、モンテッソリー教具
- 五、運動用具
- 六、遊戯用具
- 七、標本模型
- 八、設備用品
- 九、裝飾用品
- 十、おみやげ用品
- 十一、書籍繪畫類
- 十二、諸表簿證書類
- 十三、普通玩具類
- 十四、其ノ他一般ノ用具材料

東京麹町區三番町

フレール館

(電話番町二九九〇)

(振替東京一九六四〇)

フレール館の
新製
品

春駒

一、製造の由來——此の春駒は東洋幼稚園長岸邊先生の御創案にして御使用後増々其の効果の偉大なるに驚かれつゝある運動具なり。

一、使用遊戯——騎兵の操練、騎兵の戦闘、競馬等に用ひて兒童勇躍の狀を想見せられよ。

一、出來方——馬首の形に板を挽き之に象箠を以て表象し丈夫なる棒を附して末端に二個の車を附し且つ首の付け根に四尺の紐を以て首に掛くる様にす之れ戦闘の際軍刀を持つ時手を馬より離し得る爲めなり。

定價五十錢 送料實費ヲ要ス

● 幼稚園用品は家庭玩具としても亦普通玩具に冠絶す

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)

婦人子ども 第十五卷第十號

大正四年十月五日發行
大正四年十一月五日納本濟

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場